

## 平成 29 年度当初予算・平成 28 年度 2 月補正予算について

平成 29 年 3 月  
千葉県競馬組合

船橋競馬においては、平成 27 年度決算で累積赤字を解消し、その後も好調な売上げを維持しておりますが、この追い風を、さらなる売上向上、船橋競馬の持続的な発展に結びつけていくことを目指し予算を編成しました。

### 1 平成 29 年度当初予算のポイント (総額 545.7 億円/前年度当初比 88.2 億円増)

競馬ファンの皆様にも、競馬は初めてというお客様にも楽しんでいただけるよう、魅力的なレースづくり、強い馬づくり、施設・設備の改善、ファンサービスの充実に取り組みます。

#### (1) 競走番組の充実

出走頭数の確保、有力馬の出走促進に向け、賞金及び諸手当を増額します。

##### ① 一部重賞の賞金増額 (↓1 着賞金/万円)

- ・マリーカップ [JpnIII] (2,100 → 2,500)
- ・東京湾カップ [SIII] (1,000 → 1,500)
- ・京成盃グランドマイラーズ [SIII] (1,000 → 1,200)
- ・習志野きらっとスプリント [SIII] (1,000 → 1,200)
- ・平和賞 [SIII] (1,000 → 1,300)
- ・船橋記念 [SIII] (1,000 → 1,200)
- ・報知グランプリカップ [SIII] (1,000 → 1,200)

##### ② 準重賞の賞金増額 (1 着 500 → 600 万円)

##### ③ 準重賞への格上げ (ブルーバードカップ/1 着 400 万円)

##### ④ 2・3 歳馬一部上位レースの賞金増額 (1 着 300 万円)

※ 船橋競馬歴代名馬の名を冠した特別レースをシリーズで実施し成長馬を支援

##### ⑤ 賞金配分方式の変更 (170→180 方式) ※ 川崎・浦和協調

賞金総額を 1 着賞金の 1.7 倍→1.8 倍へ引き上げ (重賞除く)

※ その他各クラス賞金水準引き上げ (28 年度途中から実施)

##### ⑥ 在きゅう馬出走手当の増額 (8→9 万円) ※ 28 年度途中から実施

##### ⑦ 在きゅう馬着外手当の増額 (2→3 万円) ※ 28 年度途中から実施

##### ⑧ 2・3 歳馬重賞競走特別出走奨励金 (5 万円/在きゅう馬対象)

##### ⑨ Jpn 競走着外特別手当 (6~8 着の在きゅう馬対象) 【新規】

##### ⑩ 調教師、調教師補佐、騎手、及び厩務員奨励金の充実 ※ 南関 4 場統一対応

(8,000~13,000 円 → 9,000 円~14,000 円/1 レース (指定・地方交流以外の競走))

#### (2) 強い馬づくり・騎手の育成

在きゅう馬を確保し、将来的に交流重賞において活躍できるような強い馬を育てていくため、千葉県馬主会を通じて、馬主会会員の馬購入費等に対する助成を拡充します。

また、当場所属新人騎手の騎乗機会確保、騎乗技術の向上を目的とした手当を新設します。

##### ① 在きゅう馬確保対策補助

- ・馬購入費助成 3,000 万円 (28 9 月補正 500 万円)
- ・2 歳馬入厩支援 6,600 万円 (28 9 月補正 5,000 万円)

##### ② 減量騎手騎乗奨励金【新規】

8,000 円/1 騎乗 (出走馬馬主へ支給)

#### (3) 競馬場施設・設備の改善

施設整備基金 (2 月補正で積み立て) を活用して投票端末 (馬券の発売・払戻に係る装置) を更新し、お客様の使いやすさの向上を図ります。また、角馬場 (馬場内側にある準備運動用の調教施設) の改修を行い、強い馬づくりのための調教環境を整備します。

##### ① 投票端末等更新工事

4 億 6,000 万円

##### ② 角馬場改修工事

3,000 万円

#### (4) 広報・ファンサービスの充実

29 年度は開催日数が 57 日に増え、新たな試みとして夏季に日曜開催 (ナイター) を行います。来場者・再来場者 (リピーター) が増加するよう、広報やファンサービスの充実に取り組みます。

##### ○ 売上向上・来場促進対策業務

3 億 3,000 万円 (28 3 億 1,000 万円)

##### ・近隣からの来場促進

(中山競馬場・近隣商業施設と連携したコラボイベントの実施、競馬場周辺への折込チラシ等)

##### ・場内環境の充実 (例: ビアガーデン、キッチンカー、女性専用スペースの設置等)

### 2 平成 28 年度 2 月補正予算 (補正額 7.3 億円/総額 533.7 億円)

平成 27 年度決算で累積赤字を解消し、平成 28 年度においても黒字が見込まれるため、赤字状況下では行うことができなかった構成団体への収益配分、経営基盤強化のための基金積立を行います。

#### (1) 収益配分金の復活

1 億 3,000 万円

公営競技本来の目的である地方財政への貢献として、平成 3 年度以来 25 年ぶりに構成団体への収益配分を行います。

#### (2) 基金積立による経営基盤強化

20 億円 (積立後残高 約 23.3 億円)

老朽化が進む競馬場施設の改修や設備類の更新を着実に進めていくため、競馬用施設整備基金へ 20 億円を積み立てます。